

「語彙の取扱い等の在り方」について



ワーキンググループにおける検討事項・論点

1. 外国語を学ぶ意義

- AI時代に外国語を学ぶ意義の再定義と、外国語の「見方・考え方」の見直し

2. 目標・内容の一層の構造化

- 「学びに向かう力・人間性等」の整理等を踏まえた目標の示し方
- 「高次の資質・能力」（「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」）を中心とした内容の一層の構造化

3. 発信力強化

（1）グローバル・多文化共生社会の担い手の育成 (外国語で他者とコミュニケーションを図る意欲等の育成)

- 英語を学ぶ動機付けや児童生徒の目標設定の在り方
- 動機付けを強化するための話題・活動の在り方

（2）英語の使い手の育成（英語運用能力の育成）

- 校種間接続の課題等を踏まえた指導内容（話題・活動等）の段階的な示し方
- 5領域の活動を通した知識及び技能の指導の在り方（語彙や文法の指導を含む）
- 科学的知見を踏まえた学習プロセスを意識した指導の在り方
- 高等学校の科目（特に「論理・表現」）の在り方
- AIを含むデジタル学習基盤の活用の在り方

4. 児童生徒の英語力の把握・評価

- 「学びに向かう力・人間性等」の評価の新しい整理を踏まえた評価等の在り方

5. 柔軟な教育課程

- 義務教育における調整授業時数制度や高校における科目の柔軟な組み替えや履修の免除を可能とする仕組みを前提とした場合に、考えられる教育課程・学習指導の工夫の在り方

6. 指導体制・環境整備等

- AI時代の教師・ALT等の役割の再定義
- 教員の資質（英語力・授業力）向上の方策と、ALT等との連携の在り方
- 外国語を使う機会の充実の在り方

7. 英語運用能力に関する社会全体の課題

- 英語運用能力に関する社会全体の課題と、学校教育において取りうる対応の方向性

8. 英語以外の外国語

- 英語以外の外国語の推進方策

【現状と課題】

1. 総論

- 中学生が英語の学習が好きではない理由として、文法の難しさや単語を覚えることの難しさが上位
 - 前回改訂で、語彙数が大幅に増加し、中学校で指導する文法事項が増えた。こうした中、特に中学校の教科書で、難易度が高い語彙や文法の用法等（※）が含まれるなど内容が高度化し、指導や学習の負荷が上がっているとの指摘
 - これらが相まって、英語を学ぶ意欲の向上や発信力の強化にあたっての課題となっている可能性
- （※）中学3年の教科書では新出語彙の半数以上がCEFR B1・B2レベルの語彙となっている

2. 語彙に関する課題

- 前回改訂で、小学校600～700語程度（新設）、中学校1,600～1,800語程度（旧：1,200語程度）、高校1,800～2,500語程度（旧：1,800語程度）と、大幅に増加
※これまでの実績や当時の諸外国における外国語教育の状況などを参考に上記の語数とされた
- 学習指導要領において、学校種ごとに目安となる語彙数は定められているものの、指導すべき語彙の選定基準や具体的なリスト等が示されていない

（1）語彙のばらつき・難易度

- 各教科書で取扱われている語彙のばらつきが生じたり、入試等を含め過度な負担になったりしているとの指摘
- 中学校では社会的な話題が学習指導要領に位置付けられ、解説で環境問題や世界情勢や人権問題等が例示されていることから、教科書の話題が高度化し、難易度の高い語彙が増えた

【方向性と具体的論点（案）】

1. 基本的な方向性

- コミュニケーションにおいて使用頻度の高い重要な語彙や文法等を繰り返し扱うことで、児童生徒がそれらを着実に身につけ、それらを使って英語を理解でき、伝えたい内容を伝えられるよう、指導すべき語彙の選定の在り方を見直すべきではないか

※文法等については別途議論予定

2. 語彙に関する課題

（1）語彙のばらつき・難易度

- 既存のコーパスを複数参照するなどして語彙選定の基盤語彙リストを作成し、当該リストに掲載されている語を教科書で使用することを推奨すべきではないか
- 高校については、目的に応じて多様な到達水準が存在することから、教科書のレベルも様々であるため、教科書の多様性が担保される必要があるのではないか。また、小・中学校の教科書においても、難易度が過度に高まらないようにしつつ、引き続き多様なトピックを取扱うことができるよう配慮されるべきではないか

- また、リストを必要に応じて更新できるよう継続的に調査研究を実施してはどうか

※ なお、中学校における話題の改善（第4回WGで「社会的な話題」を「身近な社会的な話題」に改善する方向性を検討）により、語彙の難易度が上がりすぎないようにする一定の効果が期待できるのではないか

【現状と課題】

(2) 語彙数・語彙指導

- 小学校では、読むこと・書くことの目標は「音声で十分に親しんだ簡単な語句や基本的な表現」の意味が分かるようにすることや、書き写したり、例文を参考に書くことであり、語彙等への慣れ親しみを目指した
- このため、中学校では、小学校既習語彙を読んだり書いたりできるようにすることに加え、増加した新出語彙を指導する必要（実質2,200～2,500語）
- 各社の判断で重要な語彙が明示されている一方、実際には教科書の新出語彙を全て覚える指導がなされるなどメリハリのある語彙指導が行われていない実態も

3. その他

- 専門的な知見を踏まえた効果的な指導方法や学習方略を充実させていく必要
- その際、AIを含むデジタル学習基盤の活用等、語彙指導や語彙学習が一層効果的になる手法も併せて取り入れていく必要

※現行の学習指導要領における語彙数の考え方

「綴りが同じ語は、品詞に関わりなく1語と数え、動詞の活用形、名詞の単数・複数形、形容詞や副詞の比較変化などのうち規則的に変化するものは原則として辞書の見出し語を代表させて1語とみなすことができる。」

【方向性と具体的論点（案）】

(2) 語彙数・語彙指導

- 中学校において、小学校で扱った語彙の定着を図り、コミュニケーションの中で活用できるようにする必要があるのではないか
- 前学校段階で扱ったものも含め、児童生徒がコミュニケーションに必要な重要な語彙に繰り返し触れ、①受容から発信に転換できるように、また、②語彙の理解を深め、様々な文脈や場面で活用できるようにする必要があるのではないか
- 上記を可能とするため、前述の基盤語彙リストの作成とともに、語彙の難易度、使用頻度等に基づく重要度等を勘案し、指導すべき語彙数を精選も含めて見直す必要性があるのではないか

※入試や調査の作問に資するよう、各教科書の新出語彙リストは電子データとして提供されるべきではないか

3. その他

- 効果的な語彙指導・語彙学習が行われるよう、第二言語習得の研究や学習科学の知見を踏まえた語彙の効果的な指導や学習方略、またこれらを効果的に行うためのAIを含むデジタル学習基盤の活用方法について、参考となる考え方を示すべきではないか

語彙の改善イメージ（案）

現状

- 各校種の語彙数の目安があるのみ
 - 中学校では難易度の高い語が登場
 - 各教科書の語彙選定にばらつき
 - 過度な負担、重要な語彙の定着が不十分

現行の語彙数

合計 4,000～5,000 (リストなし)

※大学受験等への対応のために5,000語以上の語を学習する場合もある

高

1,800～2,500語

英コミュ I 400～600

英コミュ II 700～950

英コミュ III 700～950

中

1,600～1,800語

小

600～700語

改善イメージ

- 語彙選定の基盤語彙リストを示すとともに話題を改善（第4回議論）
 - 教科書の語彙の難易度の平準化
 - 教科書の語彙選定の平準化
 - 負担の適正化、重要な語彙を確実に使えるようにする

今後の在り方

合計 ● 語程度

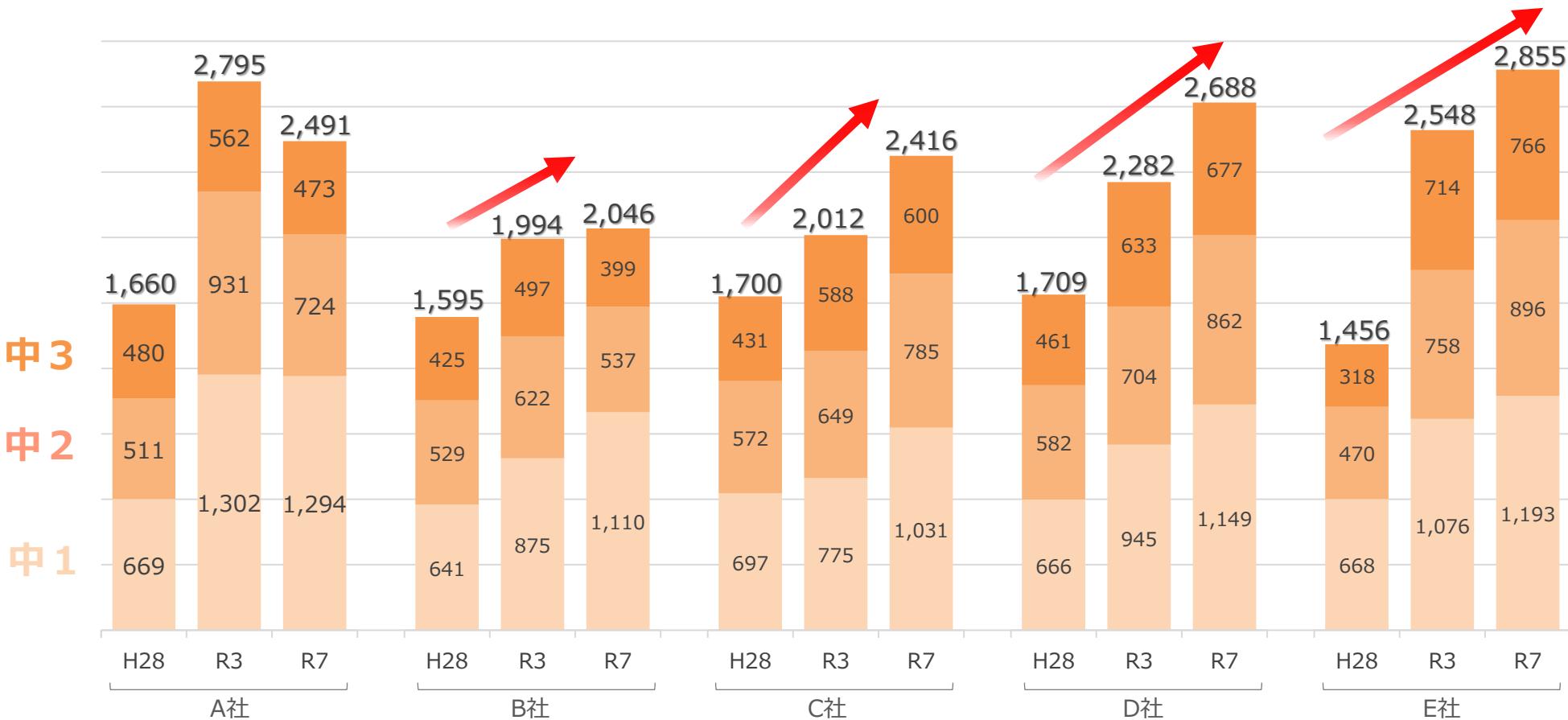
語彙リスト

- 語彙数の精選
明確なリスト化
- 既存コーパスを複数参照するなどして作成
 - 語彙の難易度（CEFRレベル等）、使用頻度等に基づく重要度等（カタカナ英語との対応等を含む）を勘案して優先順位付け及び各学校段階への振り分けを検討
 - ※その際、他のアジア諸国における状況も一定の参考にする必要
 - ※高校については、生徒の実態も様々であるため、教科書の多様性の担保が必要であることに留意が必要
 - ※小・中学校においても、難易度が過度に高まらないようにしつつも、引き続き教科書で多様なトピックを取り扱うことができるよう配慮が必要
 - ※リストを必要に応じて更新できるよう継続的に調査研究を実施



参考資料・データ

教科書の語彙数は増加傾向にある（H28→R3→R7）

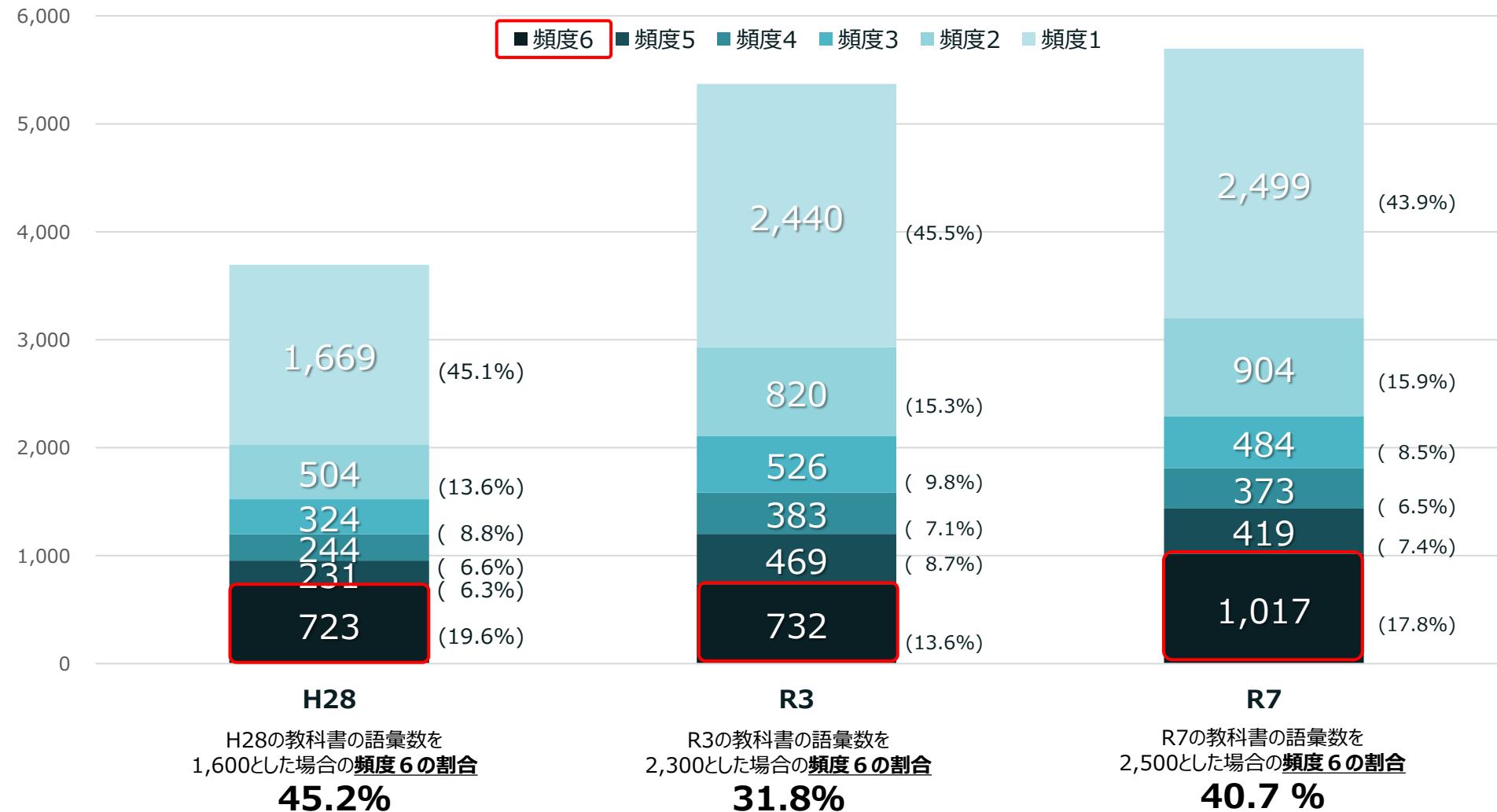


※ 語数は、調査者が、各教科書の巻末にある語彙リストの見出し語のうちから、短縮形を除いて数えたもの。（教科書によっては、語彙リストから固有名詞を省いているものもあるが、その場合も本文や別表等から補って加えていない。）

したがって、この数は、各教科書が固有名詞などを新出語扱いしないで設定している語数とは一致しない。

※ また、学習指導要領でいう「小学校で学習した語に1,600語～1,800語程度の新語を加えた語」という規定に即したものではない。

6種類全ての教科書で扱われている語彙（頻度6）は約3～4割であり、 教科書によって扱われる語彙にはばらつきがある

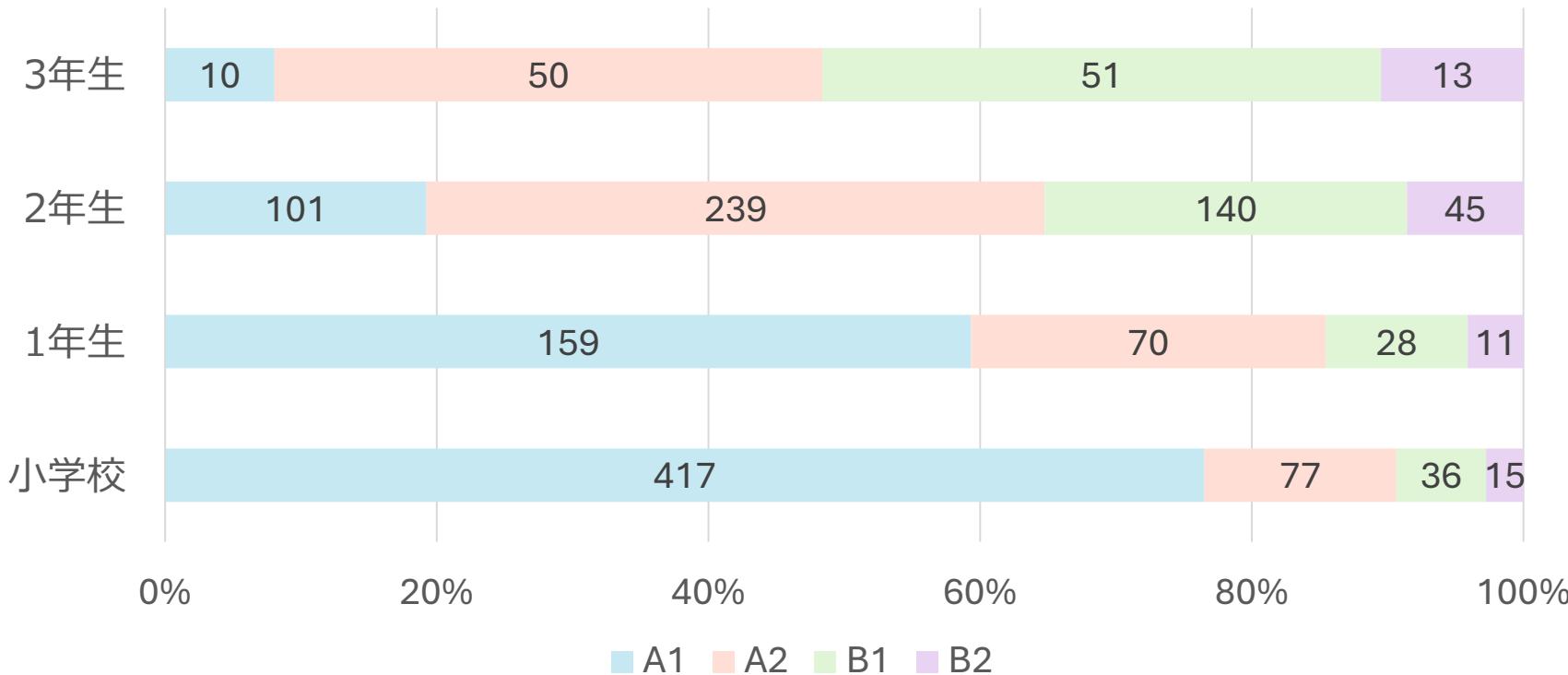


※()内の数字は各年度内での割合

※「H28の教科書の語彙数を1,600とした場合」は、P.6の資料におけるH28の6種類の教科書の語彙数の平均値を基に算出（R3及びR7も同様）

教科書で扱われている新出語彙のレベルは、学年が上がると高くなる

教科書に登場する語彙タイプの分布



※中学校の語彙は、中学校教科書6社のうち2社以上で出現している1758語。

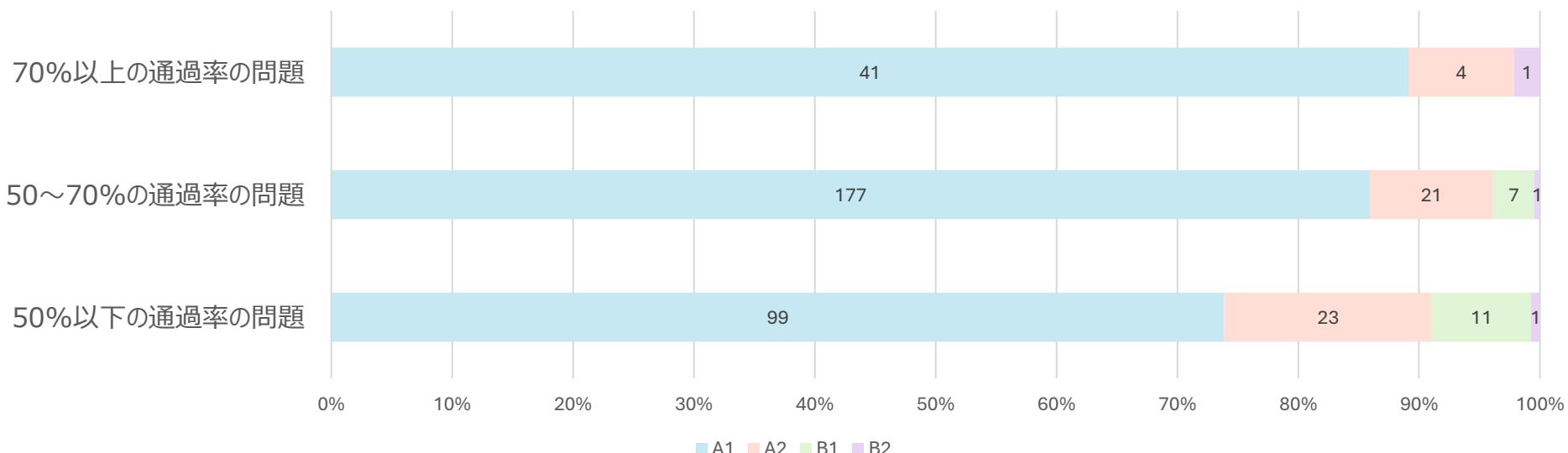
小学校の語彙は、中学校教科書で「小学校で学習したとみなしている」語、628語。

※教科書に出てくる語彙リストとして、New Word Level Checker (<https://nwlc.pythonanywhere.com>) のJET2020の語彙リストを使用し、New Word Level Checker を用いてCEFR-J Wordlist 1.5に基づき、CEFRレベルに分けた。



- 通過率が高い問題の方が、CEFR A2レベルの語彙が占める割合が比較的小さい。
CEFR A2レベル以上の語彙が少なければ、高い理解力を示す可能性。
- 通過率が50%以下の問題は、CEFR A2以上の語彙の占める割合が26%と比較的多かった。

「読むこと」の通過率ごとの語彙レベル（中3）※中2も同様の傾向



※受容語彙について、「読むこと」の問題文（選択肢を含む）をNew Word Level Checker (<https://nwlc.pythonanywhere.com>) によって分析。
※第3学年に関して、通過率が70%以上の問題、50～70%の問題、50%以下の問題に分けて分析。

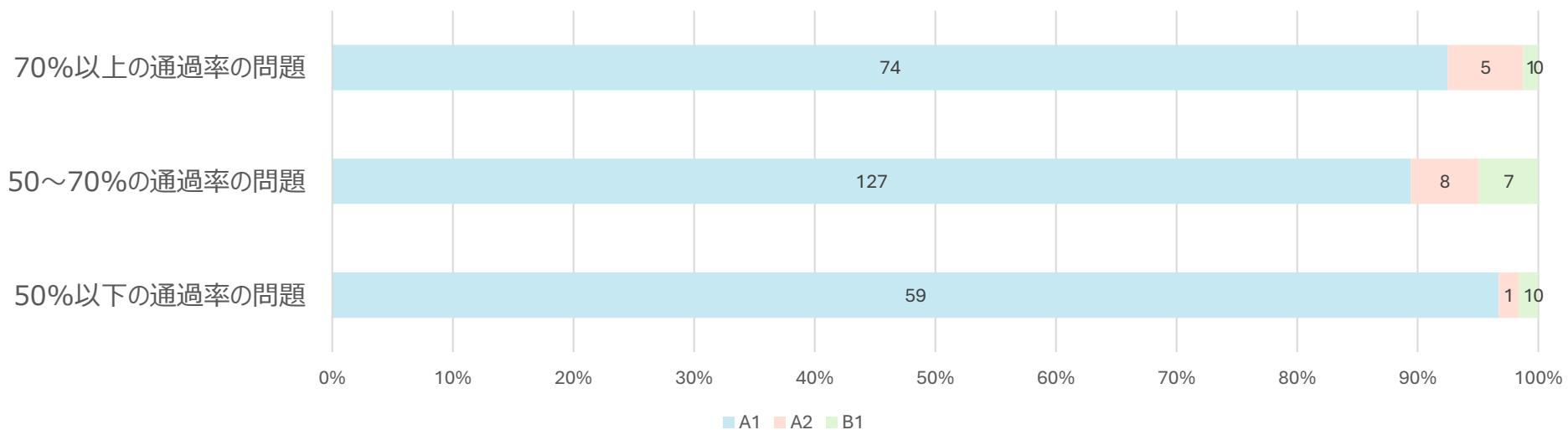
(参考) CEFR A2の語彙は品詞別語で1411語、見出し語で1352語。

(CEFR-J Wordlist 1.6 (<https://www.cefr-j.org/download.html>) によって分析。)



- 通過率と語彙のレベルに関係は見られない。
- CEFR A1レベルの語彙を含む英文であっても、高い通過率を保証するものではない可能性。

「読むこと」の通過率ごとの語彙レベル（中1）



※受容語彙について、「読むこと」の問題文（選択肢を含む）をNew Word Level Checker (<https://nwlc.pythonanywhere.com>) によって分析。
※第1学年に関して、通過率が70%以上の問題、50～70%の問題、50%以下の問題に分けて分析。

(参考) CEFR A1の語彙は品詞別語で1166語、見出し語で1068語。

(CEFR-J Wordlist 1.6 (<https://www.cefr-j.org/download.html>) によって分析。)

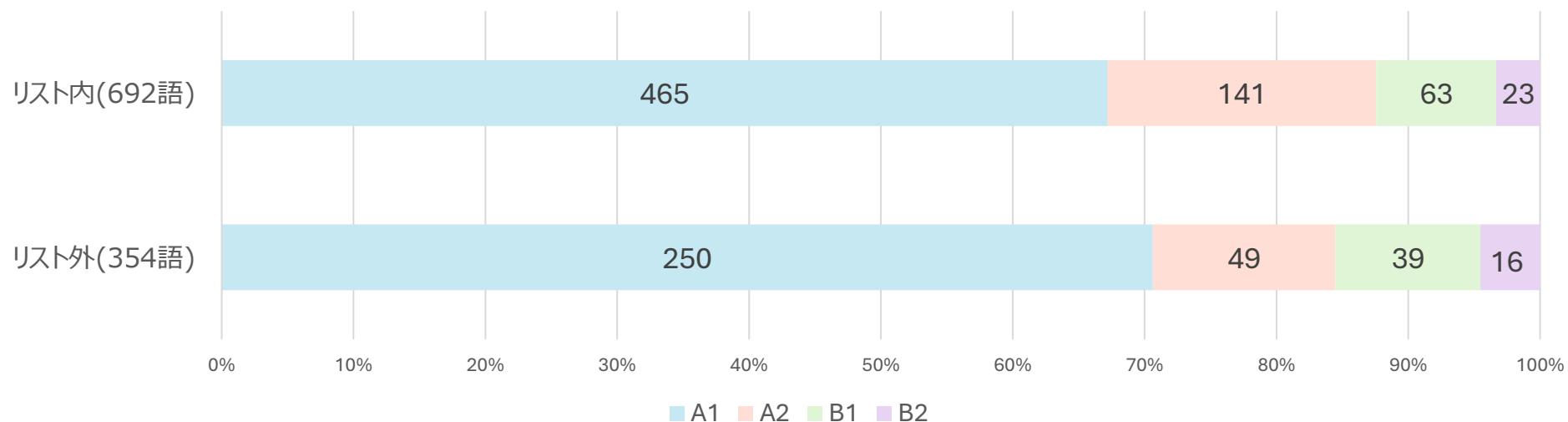
「書くこと」では、使用した語彙・使用したい語彙のレベルは 大半がCEFR A1レベル相当

暫定値



- 中3の生徒が「書くこと」で使用した語彙のうち、リスト内の語彙は692語であった。リスト内の語彙のうち、CEFR A1レベルは67%。CEFR A2レベルまで含めると、88%であった。
- リスト外の語彙のうち、書きたい語のレベルを分析するために綴りの誤りを含む語を抽出して修正した結果、354語であった。そのうち、CEFR A1レベルは71%。CEFR A2レベルまで含めると、84%であった。CEFR A1レベルの語彙であっても、綴りを正しく書くことに課題が見られる。

「書くこと」における産出語彙レベル（中3）（n = 300）



※リストは、CEFR-J Wordlist 1.5

※産出語彙について、「書くこと」の問題における記述を第3学年300名を抽出。

抽出したものを、New Word Level Checker (<https://nwlc.pythonanywhere.com>) によって分析。

※固有名詞及び日本語のローマ字表記等を除いている。

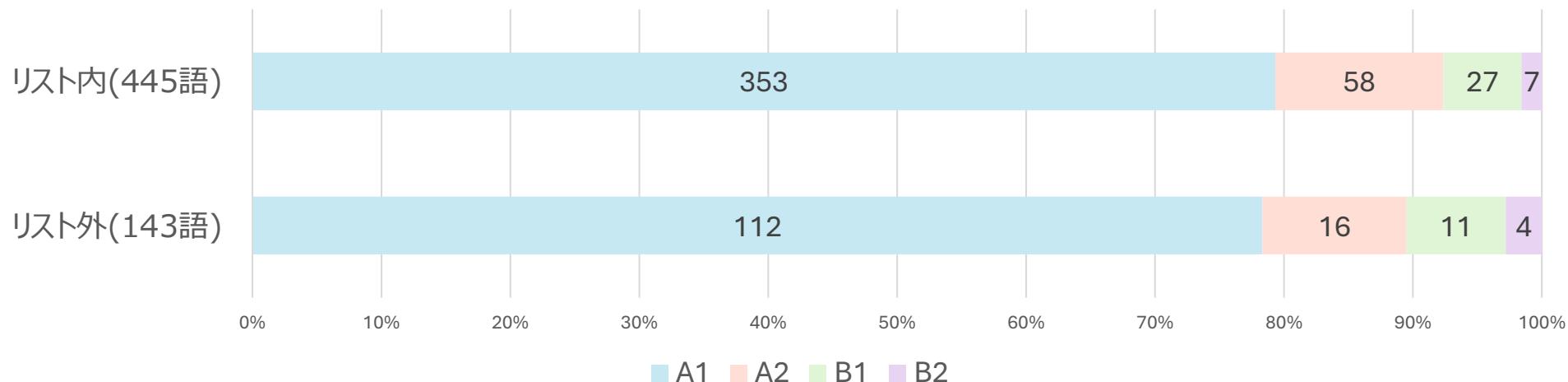
「書くこと」では、使用的した語彙・使用したい語彙のレベルは ほとんどがCEFR A1レベル相当

暫定値



- 中1の生徒が「書くこと」で使用的した語彙のうち、リスト内の語彙は445語であった。リスト内の語彙のうち、CEFR A1レベルは79%。CEFR A2レベルまで含めると、92%であった。
- リスト外の語彙のうち、書きたい語のレベルを分析するために綴りの誤りを含む語を抽出して修正した結果、143語であった。そのうち、CEFR A1レベルは78%。CEFR A2レベルまで含めると、90%であった。CEFR A1レベルの語彙であっても、綴りを正しく書くことに課題が見られる。

「書くこと」における産出語彙レベル（中1）（n = 300）



※リストは、CEFR-J Wordlist 1.5

※産出語彙について、「書くこと」の問題における記述を第1学年300名を抽出。

抽出したものを、New Word Level Checker (<https://nwlc.pythonanywhere.com>) によって分析。

※固有名詞及び日本語のローマ字表記等を除いている。



- 中1の生徒が「書くこと」で間違った語彙に着目すると、CEFR A1レベルの語彙は112語、A2レベルの語彙は16語。
- 中3の生徒と比較すると、同じ語であっても多様な綴りの誤りが見られる。
- A1レベルであっても、中1の生徒にとって正しい音声の認識及び音と文字との結びつきに課題があると考えられる。

A1レベルの語彙の綴り間違いの例（中1）

beautiful (42) ※中3は9

beutiful (5), butiful (4), batiful (2), bautiful (2), beauful (1), beauful (2), beautifull (2), beautifulu (1), beaututiful (1), befutiful (1), betfor (1), betiful (1), beautyfor (2), burdifor (1), buteful (2), butefull (1), beautihul (1), beateful (1), beuteful (1), bult (1), beutifre (1), biautiful (1), beáutifull (1), bullu (1), bútfur (1), beautchful (1), brutefor (1), dyutiful (1), datfl (1) など

summer (35)

sumer (11), summar (4), sammer (2), sammr (2), somer (2), sormer (2), samar (1), samr (1), semmer (1), sma (1), smear (1), smeer (1), souma (1), sumre (1), sammar (1), sormore (1), sammre (1), sammar (1), sammr (1), sumamr (1), smer (1), smere (1), sommer (1), smr (1), sumaa (1), smar (1), samme (1) など

flower (29)

frawar (3), flowars (2), frowor (2), fulwar (2), flow (1), flaw (1), flor (1), flore (1), fluwes (1), fraw (1), frowe (1), fulawae (1), furower (1), frowar (1), furwar (1), furawe (1), flrow (1), furawa (1), forower (1), fllowr (1), flwar (1), furaw (1), furawer (1), frowr (1), hulawer (1), friwer (1), fowers (1) など

winter (29)

whinter (2), wintr (2), wintter (2), wentr (2), wantr (2), wemta (1), wentre (1), whiet (1), whiter (1), wiheter (1), wintre (1), winte (1), witer (1), wintr (1), wintew (1), witer (1), winter (1) など

pet (18)

pat (4), petto (3), bet (2), peet (2), peto (1), petot (1), peeto (1), pert (1), qet (1), peat (1) など

spring (15)

supring (3), sprengs (2), sparing (1), sprng (1), sparing (1), supuring (1), sprint (1), spuring (1), spulint (1), spering (1), splng (1), sprink (1) など

make (14)

meke (6), meik (3), maek (2), meak (1), meking (1), meak (1), meuk (1), meikes (1), maiku (1), meikingu (1), meikng (1) など

very (11) ※中3は5

verey (2), verry (2), vere (2), veri (2), beley (1), bery (1), bele (1)

favorite (10) ※中3は6

farorite (2), fovoret (1), fvoret (1), favrit (1), favoret (1), fadort (1), fevorite (1), favorit (1), fevaret (1) など

※産出語彙について、「書くこと」の問題における記述を第1学年300名を抽出。

※抽出したものを、New Word Level Checker (<https://nwlc.pythonanywhere.com>) によって分析。

(出典) 令和5年度中学校学習指導要領実施状況調査に基づき、作成。

音と文字の結びつきは、中3の生徒でも難しい可能性



- 中3の生徒が間違った語彙に着目すると、CEFR A1レベルの語彙は250語、A2レベルの語彙は49語。
- A1レベルであっても、中3の生徒にとって音と文字とを結びつけることは難しい可能性。

A1レベルの語彙の綴り間違いの例（中3）

practice (24)

plactice, practis, practic, plactis, practce, plactise, pRACTICE, practise, proctice, practive, practse, praticte, practish, practhis, prectis, pratice, puactis, practice, puritact, practece, practicing など

because (15)

becouse, becoues, becauce, becaus, becase, becose, becase, becuse など

culture (10)

calture, culuture, caruture, culter, cultury, calchat, cluture, cltuare など

beautiful (9)

butiful, bertifull, vutiful, beateful, beauful, buteful, beatiful, beutiful, buitufull

delicious (8)

dericious, delisio, derisas, delisious, deliciose, delishia, deilicious, delicaus

introduce (7)

intoroduce, introdeuce, introdce, intoroduse, intrduse, introde, introduce

baseball (6)

beasball, dasedall, baseboll, basedall など

favorite (6)

favorit, favrit, faborit, feivert など

very (5)

bery, veary, vere, bry など

※産出語彙について、「書くこと」の問題における記述を第1学年300名を抽出。

※抽出したものを、New Word Level Checker (<https://nwlc.pythonanywhere.com>) によって分析。